

双松会会報

第一号(「双松」通巻8号・「松高北高同窓会報」通巻第10号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校校内双松会事務局 TEL ④4888・⑤3633
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ④3000

今なお健在の双松



新「双松会」いよいよ始動

第一回 役員会 新会長に柴田氏

去る五月二十一日、新「双松会」総会の代行となる「双松会」役員会が、市内、むらくも会館において開催され、空席となっていた会長に副会長だった柴田午郎氏を選出した。

昨年五月二十二日に、双松会・松高北高同窓会の合併が幾多の経緯を経ながら正式決定し、故田部長右衛門氏を会長としてスタートしたが、不幸にし

役員氏名(敬称略)

会長	(新)柴田午郎	(第44期)
副会長	森脇善夫	(45)
	庄司泰親	(50)
	(新)兼折博	(52)
	森本正紀	(53)
	並河純	(64)
幹事	馬場純一	(44)
	(氏名略) 166名	

新双松会は、前記二つの会の合併によって会員数は二万を超す大世帯となり、新しく発足した柴田会長のもとで、今後一層の発展を期待したいものである。

新双松会会長挨拶

柴田午郎

田部長右衛門氏の逝去後、久しく空

移転、校舎の新築も終了し、実に快い

の問題が、宍道湖(斐伊川一級河川)

の合併も成り、近き将来に松江女子関

道 生かす 継 伝 統 長 校 新

前川前校長の後を受けて、四月から本校に勤めさせていただいております。

「特色ある学校」ということがこのころ盛んに

昭和五十五年三月十二日、北高の教

「紅陵会」もスタート

昭和五十五年三月十二日、北高の教育活動の助成等を行い、もって有能な人材の育成を図ることを目的として、財団法人「紅陵会」が発足し、理事長に兼折博氏が就任されました。

赤山に移転して、静かな自然環境と

財団法人「紅陵会」役員

- 理事長 兼 折博 (五二期)
- 常務理事 坂本知三 (PTA会長)
- 理事 泉完次 (高四期)
- 井戸内正 (六五期)
- 今岡登校 (長)
- 景山一晩 (高二期)
- 葛尾早苗 (高二期)
- 福島邦光 (六八期)
- 八幡邦光 (六〇期)
- 山口栄一 (六七期)
- 仙田一恭 (高四期)
- 森本暉 (高一)

近代的な設備の中で快適な勉学を続けることができるようになりまし

最近、関西地方を中心に、双松会事務局の名で広告料を募る者がある

虫 くい 松

校地内の椎や松から、真昼だというのにひぐらしの

八月になって、起雲館では体育系各部の合宿が最盛期を迎えた

治山治水が大切なことであり、また、至難の業であることは、夏の禹王の故事をまつまでもないことである

赤山に松江北高を訪れて思う

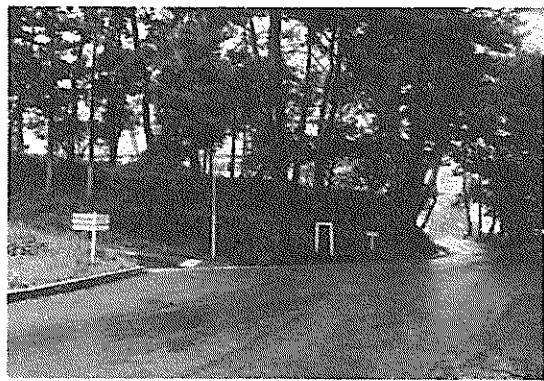
烟 欽 二

昭和五十五年六月八日松江で催された本年度の昭七会(旧制松江中学校昭和七年卒業生の会)総会に参加し、善光寺での物故同期生の追悼法要の後、夜の懇親会までの僅かな時間を利用して、同期生兼折博君の案内で赤山の松江北高を訪れた。

旧制松江中学校の後身である同校が、校舎の新築成って赤山に復帰してから初めての訪問である。北高とはいえ、私の胸中は母校を訪れる懐かしさで一杯であった。

日曜日にも拘らず教頭の諏訪先生の御好意で起雲館を案内していただき、いろいろと貴重な資料を拝見し、また館内から雨に霞む校庭の双松や新設の運動場を望見して往時を偲んだ。

私は雨も止んだ翌九日一人で再び学校を訪れて双松の下に佇んで天籟の松風に耳を傾け、紅顔の中学生当時の心に還り、勉学に、スポーツに全精魂を注いで御指導をいただいた恩師の数々の訓を顧み、また嬌風会の一員として生徒の自治と自主修練推進の先頭に立



赤山への坂道

当時の校歌(赤山健児の歌)は赤山魂を調れるまことに格調の高いもので、私達は常にこの歌を高唱し、「質実剛剣」を心の糧として、東洋平和を保つべき崇高な使命に若い血を躍らせて邁進した。

昭七会総会で兼折君から、今回松中の同窓会と高校の同窓会が一本化されて、双松の下で学んだ人々が赤山魂で固く結ばれ親睦を深める基盤が整ったことを聞いて、まことに喜びに堪えない。そして、今回発行される新しい同窓会報が会員の意志疎通の広場として機能し発展することを願ってやまない。

〇五十二期 卒業
〇東京都小手市 在住

昭和55年度双松会会計予算

Table with financial data for the 1980 fiscal year budget, including income and expenditure items and amounts.

創立百周年記念基金特別会計予算

Table with financial data for the special fund budget for the 100th anniversary, including income and expenditure items and amounts.

昭和55年度双松会会計決算書

Table with financial data for the 1980 fiscal year actual results, including income and expenditure items and amounts.

起雲館から(1)

寄贈をうけた昭和七年の教科書「女子修身」の中から数十枚の押し花が出て来た。四十八年前の花びらである。濃いピンク色の、薄絹のような肌ざわりの花卉が、和綴りの本のあのページ、このページに散りばめられてある。

生物担当の職員は、花びらしかないその花を、一晩がかりで検討し、木櫃ではあるまいかと言われる。恐らくは数十年の間、人知れず密かにその美しさを保ってきたその花卉に、今、校史資料の整理をしていた女生徒は目を輝かせて見入る。

修身の教科書と可憐な花びらのとりあわせ、世の中の大きな変動をはさんだ半世紀を隔てての先輩と後輩との交感、そしてその花びらが語りかける何かがある。

意見 赤山と西川津の生活を省みて

松高第三期 森 淳

昭和五十四年九月に旧双松会等の前身校同窓会と松高・北高同窓会が一本化して(新)双松会として新発足したことはまことに同慶の至りである。

だが旧制高等学校の卒業生諸氏が新制大学(例えは旧高卒卒業生が鳥根大学文学部であるいは理学部)の卒業生を諸氏の後輩とお考

私は旧制松江中学の最後の入学生として、一年生の時に教えられた数学を新制高校の一年で又数えられたことに驚いた経験がある。現在の教育制度は米国の植民地政策としての愚民政策に基づくものでありこれを改めて旧学制に戻して学区制を廃止し、現在の中学

悪しき平等は不平等であり現在の如き教育制度では国家、民族の将来は累卵の危機に瀕しているように思われるが杞憂であろうか。

私は旧制松中とその延長としての併中の生徒の三年間と新制松高の最初の一年生として入学し、男女共学の第一回生として校舎も赤山と西川津と丁度三年つづ学んだ体験から旧と新の教育制度を比較して以上のように考える。

双松会会則

- 第一条(名称)本会は双松会と称し、事務局を松江市奥谷町一六四番地、鳥根県立松江北高等学校内に置く。
第二条(会員)本会は、鳥根県立松江中学校、鳥根県立松江高等学校、鳥根県立松江北高等学校の各卒業生をもって組織し、鳥根県立松江北高等学校教職員を客員とする。
第三条(目的)本会は会員の親睦を厚くし、母校の発展を図ることを目的とする。
第四条(事業)本会は前条の目的を達成するため次のことを行う。
(1)会報及び会員名簿の発行
(2)親睦会、研修会、講演会等の開催
(3)学校に対する各般の援助
(4)その他本会の目的達成に必要な事業
第五条(役員)本会に、次の役員を置き、任期は三年とする。ただし、再任を妨げない。
1、会長 一名
2、副会長 若干名(内一名は鳥根

双松会会則

- 1、会務の報告
2、予算の審議及び決算の承認
3、会則の改廃
4、その他本会の目的達成に必要な事項の審議
第六條(役員)本会には、会長、副会長、幹事、監事は、総会において選出する。
幹事長、事務局長は、会長が委嘱し、常任幹事は幹事の中から会長が委嘱する。
第七條(会議)本会の会議は次の三つとする。
1、総会
2、役員会
3、常任幹事会
第八條(総会)総会には必要に依りて会長が招集する。
第九條 総会においては次の事項を行う。
1、会務の報告
2、予算の審議及び決算の承認
3、会則の改廃
4、その他本会の目的達成に必要な事項の審議
第十條(役員)本会には、会長、副会長、幹事、監事は、総会において選出する。
第十一條 役員会には、次の事項を審議し、決定する。
1、総会に提出する議案
2、総会において委任された事項
第十二條(常任幹事会)常任幹事会には、会長、副会長、幹事長、常任幹事、事務局長をもって構成し、会長がこれを招集する。
第十三條 常任幹事会は、次の事項を審議し、決定する。
1、役員会に提出する案件
2、役員会において委任された事項
第十四條 会長は本会を代表し、会務を総括する。
第十五條 会長はこれを代行する。
第十六條 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはこれを代行する。
第十七條 本会には顧問を置くことができる。
第十八條 本会の会計年度は毎年四月一日から翌年三月三十一日までとする。
第十九條 本会の経費は、次の収入をもってこれにあてる。
1、入会金
2、寄附金
3、事業による収入
4、その他
附則 本会則は昭和五十四年五月二十三日から施行する。

県高校総体を終えて 男女総合第4位

勇躍、18名が全国大会へ

今年の県高校総体は、県下各地において前期が五月三〇日、六月一日、後期が六月六日、六月八日の二期にわたって開催されました。

昨年の男女総合成績は第五位であったので今年度は一歩前進と言えます。種目別成績にも見られるように、選手達はよく健闘してくれました。

二年後にせまった、くにびき国体、強化策が徐々に成果をあげ、全体的に選手層が厚くなっています。が、本校の生徒は最後まで「質実剛健」日頃の練習の成果を充分に発揮し、全国総体へ18名の選手を出場させることができました。次に本校の成績について報告いたします。



硬式庭球部

- 男子団体 優勝
- 女子団体 優勝
- 男子ダブルス優勝(高尾・木村)
- 男子シングルス優勝(高尾)
- 女子ダブルス優勝(津田・丹羽)
- 女子シングルス優勝(津田)

陸上部

- 男子一〇〇M 六位 木村 敦
- 男子一〇〇M H 三位 木山直久
- 四〇〇M R 四位
- 走巾跳 五位 古川浩一
- 三段跳 六位 福田康生
- 女子一〇〇M 三位 福田康生
- 女子一〇〇M 三位 中浜充枝
- 二〇〇M 二位 木村悦子
- 走巾跳 三位 木村悦子
- 優勝 三位 木村悦子

全国五連覇なるか

通信・男子バレー部

通信制には、体育系の七つの部があるが、中でもバレー、軟式野球、岸球、柔道、剣道の活躍が目ざましく、なかなか、男子バレーは五十一年以来四年連続全国征覇の偉業を成し遂げ、軟式野球も五十二年に全国優勝を果たした。今年も五つの部が地区予選を見事に勝ち抜き、全国大会へ歩を進めている。バレーの五連覇をはじめ、各部の活躍を期待している。

進路状況

	(旧制度)			(新制度)		
	52年3月	53年3月	54年3月	55年3月	54年3月	55年3月
国立大	149	47	196	170	59	229
公立大	15	9	24	14	3	17
私立大	202	118	320	301	180	481
国立短大	3		3	1	1	4
公立短大	21	3	24	33	2	35
私立短大	67	4	71	65	2	67
準大学		1	1	1	1	1
高専	5	5	15	2	17	38
その他	9	1	10	13	8	1
合計	471	183	654	611	250	861
現役のみ						
卒業生	453		451		458	
進学者	442		434		445	
浪人数	316		339		314	
うち合入者	126		95		131	
退学者	19		23		21	
合格率	75.8		83.4		75.3	
進学率	71.5		78.1		70.6	

※合格率: $\frac{\text{進学者} + \text{合格浪人}}{\text{進学者} + \text{希望者数}} \times 100$ 進学率: $\frac{\text{進学者数}}{\text{進学者} + \text{希望者数}} \times 100$

今春の進路状況

新制度入試第二年目の今春、本校の国公立大学合格者は二六三名(現役一九五)で、中国五県で最も多数でした。私立大・短大等の志望者もよく健闘し全体として極めて良い成績を上げてく

れました。「受験戦争」といわれるような現在の厳しい情勢下において、勉学と課外活動の両立を目指す本校の一貫した方針を、美事達成した生徒も数多くいます。最近では地元大学への志向が強まっており、本校でも島根大学へ九四名合格したのを最高に、旧帝大をはじめ全国にわたる大学に合格しています。

ボート部

- 男子団体 二位
- 女子団体 二位
- 男子一回戦 松北1-2川本
- 女子準々決勝 松北0-2大社

バドミントン部

- 男子団体一回戦 松北1-2松農
- 女子団体決勝戦 松北0-2松商
- 女子ダブルス準決勝 松北(松下・安食) 0-2松商
- 男子シングルス ベスト8 真野
- 女子シングルス ベスト16 園山

弓道部

- 女子団体 五位
- 女子個人 三位 富田容子
- 男子決勝戦 松北77-81松工
- 女子準々決勝戦 松北52-67平田

バスケット部

- 男子決勝戦 松北77-81松工
- 女子準々決勝戦 松北52-67平田

卓球部

- 男子団体準々決勝 松北3-4出商
- 女子団体一回戦 松北2-4出西
- 男子ダブルス ベスト16 大町・石川
- 女子ダブルス " 石川・坂本
- 男子シングルス ベスト16 小村・原
- 女子シングルス " 石川見

剣道部

- 男子団体一回戦で敗退

第三十二回学園祭は、九月五日から三日間、本校教室棟・体育館を中心に、「雄飛」をテーマに行われます。

赤山に移転して三回目を迎える学園祭ですが、清新な中にも充実した落ち着きあるものと、すでに生徒会・文化部各部ともに準備をすすめています。北高生徒の知性・知力の結集したフェスティバルを御期待下さい。

催し物は次のとおりです。

△第一日 (九月五日 金曜日)

午前中は、記念式、講演が行われます。講師は、朝日新聞東京本社外報部次長 飼牛康彦氏。

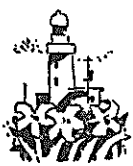
午後からは、文化部各部の発表展示を中心に、体育館では、音楽会(アラスバンド・合唱部・箏曲部)、音楽の集い(同好グループ)、管理棟視聴覚教室では映画会、教室棟では、二年生によるクラス出し物などが、行われます。

学園祭 近づくと “雄飛”して秋空へ

一年に一度の学校をあげてのフェスティバルに、在校生は熱中しその知力を燃やします。後輩のそうした姿と努力の成果を、是非御覧になっていただきたいと思

います。(なお当日は、駐車場が不足しますので、自家用車の御来校は御遠慮下さるようお願いいたします。)

△第二日(九月六日 土曜日)
引き続き文化部各部の発表展示が行われます。美術部の力作展示会、地学部の小プラネタリウム、新聞部の朝日式討論会など多彩な内容です。午後、体育館では、演劇部がオリジナルを発表公演。フォークダンスの集いも計画されています。



各期だより

松中四十八期(昭和3年卒)

金山 美喜男

七月半ば、久し振りに昭三会を開いた席上「今年に古希だから同期生全員に呼びかけ大いに語ろうではないか」と発言があり、早速幹事を選任計画することになった。一つ二つの年令差はあるものの最低算で七十才になっているはず、お互いによく生きてきたもので感無量再会が待ち遠しい。

松中五十五期(昭和10年卒)

豊島 宏

五十五期生会は時々、全国規模の同期の集いを開いている。前回は昨五十四年五月の「京都の集い」であった。全国の集い開催には、半年以上の準備期間と作業が必要である。それでも既に数回開いているから、五十五期生の友情の強さが知っていたらどうしよう。

松中五十九期(昭和14年卒)

高浜 章

「京都の集い」は、南禅寺畔の老舗を誇る八千代を会場に一泊二日の楽しい同期生会であった。行事としての「修学院離宮参観」、「園山街道歴史の跡を探る」も新緑の残る古都最高の企画であった。そして、幹事役の温かい友情が身に沁みる二日間であった。

松中六十三期(昭和18年卒)

桜井元 昭

卒業以来三十七年、戦後の学制改革学校統廃合を経て、北高が赤山へ移り鉄筋白亜の近代校舎が整備されたが、二本松は往時の雄姿をそのままに我々の心を惹きつける。

市長となり、その折には同窓の皆様に大変お世話様になりました。厚くお礼申し上げます。御蔭様で五十七年国体奉節として着々と基盤整備も順調に進みつつあることは同慶にたえないところであります。早いもので来年十月には改選期が到来します。是非中村君の手で国体の主会場を担当させたいと考えておりますので、その節は重ねて宜しく御願い申し上げます。尚現在同期で消息不明者は次の十三名です。お知り合いの方御連絡賜りたく。

松中六十五期(昭和20年卒)

山口 俊行

卒業以来、三十五年が過ぎ去りました。早いもんです。只今のところ事務局へ、会員にかかわるニュースは入ってきません。何の報せもないことは、喜ぶべきことか、悲しむべきことか、会員諸賢の動静をうかがっている昨今です。何も無ければよいですが、

松中六十六期(昭和21年卒)

泉 昭夫

年をとると昔の友がなつかしくなるそうです。六十六期も五十路を過ぎ、誰もがそんな事を思い浮べる様になりました。さる七月六日近畿六六会が箕面で開催されました。事務局も特別参加し、久しぶりに歓談、赤山健児の歌と近畿六六会の歌を涙を流しながら歌い、つもる話に時の過ぎるのを忘れました。皆様も歌って見ませんか？(歌詩は左記)

卒業生御著作品の蒐集について

松江北高校図書館では、本校卒業生の御手になる御著作品と、学校史の資料となるもの(過去の本校に関わる一切の品々)を蒐集しております。長い伝統の中で先輩諸氏の御研鑽の成果を後進の鞭撻の資とするものであります。

しんじ湖 大橋 嫁ヶ島
安来節聞える
みづうみの あ、みづうみの春
季節の変わりも 目にあざやかで
千鳥のお城も あのま、だるうか
あの故郷へ帰ろうかな 帰ろうかな
松高北高二期(昭和26年卒)
葛尾 信宏

近畿六六会の歌
(北国の春)千昌夫(替え歌)
堀端 坂道 二本松
我々が学んだ 赤山の あ、赤山の道
齢もお互に 五十路といくつ
別れてもう久し あ、友どうして
あの故郷へ帰ろうかな 帰ろうかな

八月十六日に赤山に集合二年ぶりの同期生会を開催します。名簿の校正をしながら朋友の赴報に驚かされ、卒業三十五年の盛會を祈る此頃です。

一方、女子(二五六名)も三年前より毎夏同窓会が開かれる様になり、今年も去る八月十日市内むらこも会館で、帰省組も混え、五十数名が相集い盛大に開かれました。

松高北高四期(昭和28年卒)
泉 完次
某月某日
松高四期(七十二期)の泉代表幹事の非常召集で同期六人ばかりが夜の東本町Kに。同窓会名簿発行につき四期生の住所の変更等を書き出せとの依頼である。

アイウエオ順に並んだ旧名簿をくりながら、これはOK、これは変更、これは死亡とチェックする。松江に住み続けているのが六人も寄れば案外いろんな情報が集まる。本名よりアケ名の方が鮮明だったりして、あとはこれらを脊に乾杯。二十八年卒業組もはや昔話が懐しい年代になった。嗚呼!!
なお四期は秋に恒例の同窓会総会開催の予定。同期生諸君、乞ご期待。

我々は赤山で敗戦、二度にわたる校舎焼失、そして下山と激動の六年間を過ぎたせいか赤山への郷愁とロマンはどの学年にもまして強い。昭和二十六年卒業以来十数年間の人生の修業のちこそそろそろ人恋しい年令になったであらうか、いつしか同期生会が出来上っていた。正式に発足したのは昭和四十四年一月だったが、以来毎年同期生会をにぎやかにやっている。

松高北高五期(昭和29年卒)
藤原 悠
五期の仲間が活躍している人は多いが、船木俊帆氏のガラス工芸はすばらしい。今年七月末松江で個展を開いた彼の作品には、素材の形と色あいに民芸品特有の美しさ、温かみがある。現在、九州民芸村で、吹きガラス研究所を開き、活躍中である。

昭和三十五年三月卒業の皆さん、お元気ですか。ここの二、三年間、我々の期は毎年一月三日、同窓会を開いておられます。恩師の出席もいただき、大体四、五十名は顔を出します。最近、女性の出席も多くなり、懐かしい思い出話等に楽しい一時を過ごしています。八ルーム担任の福岡先生は、皆勤であります。近くにお住いでまだ出たことのない方、正月に帰省される方、是非出席して下さい。
(連絡先) 松江(0)一四八五(小林)

『双松会会員名簿』
発刊のお知らせ
1. 発刊予定 昭和55年12月末日
2. 掲載会員数 約25,600人
3. 価格 3,500円
4. (1)本紙同封の振替用紙でお申込み下さい。
(2)又は、本校に直接おいで下さい。
(3)又は、市内の書店でお求め下さい。

事務局(校内幹事)の転出入
五十四年三月(〇は松中〇期)
(転出)
井上登雄(数学) 〇平田高へ
石橋克也(国語) (高4)大田高へ
日野昌子(英語) (高8)退職
(転入)
袖本重幸(理科) 〇
春木 清(英語) (高3)
安田和彦(国語) (高13)
林 満(英語) (高17)
勝部俊行(音楽) (高18)
五十五年三月
(転出)
狩野広明(工業) 〇松江清心養護へ
佐伯 昭(数学) 〇安来高へ
井原 泰(理科) (高3) 大田高へ
吉川 進(英語) (高5) 大田高へ
(転入)
河内真紀(数学) 〇
忌部利夫(英語) 〇
吉野富雄(数学) (高7)
本田校紀恵(体育) (高11)
後藤久人(英語) (高12)
田中久志(社会) (高12)

あとがき
寒い夏の終わりに、新生、双松会、会報の第一号をお届けします。
御多忙の中、原稿を快くお書きいただいた方々に心から感謝申し上げます。
掲載の記事の他に、変る松江、変らない松江、「百年史補遺」などの案もありました。紙面の都合もあり次号に譲りました。御期待下さい。あわせて「百年史補遺」の稿の御助言をお待ちしております。また「各期便り」の欄の御利用も御遠慮なく。
来年の夏またお目にかかります。

松高北高四期(七十二期)の泉代表幹事の非常召集で同期六人ばかりが夜の東本町Kに。同窓会名簿発行につき四期生の住所の変更等を書き出せとの依頼である。

松高北高五期(昭和29年卒)
藤原 悠
五期の仲間が活躍している人は多いが、船木俊帆氏のガラス工芸はすばらしい。今年七月末松江で個展を開いた彼の作品には、素材の形と色あいに民芸品特有の美しさ、温かみがある。現在、九州民芸村で、吹きガラス研究所を開き、活躍中である。